

次世代計画年次別事業カード(H19～H21年度)

計画での予定年次 / 担当課	平成21年度(新規)	子育て支援課
事業名	子ども支援総合センター整備事業	
計画体系	1-(1)- 子どもに関する支援サービスの拠点づくり	
事業概要 【次世代計画の掲載内容】	すべての児童の健やかな育成にむけ、総合的に支援する施設を整備します。	
計画策定時のイメージ	りんくろの中にいる花川児童館やこども発達相談センターなども含め、子どもに関する機関も市役所のこども室窓口とさらに一元化を構想したもの。これを実現するには、市役所内ではそのスペースが取れないため、新設・既存施設のリニューアルを問わないが、新たな施設整備が必要との認識で位置つけた。	
課題はあるのか？ 【所管課の課題認識】	現在、市財政の建て直しが優先課題となっている中で、施設整備は、相当の取捨選択が必須であり、よほどの喫緊の課題でない限り実現の可能性は低い。当計画においても、保育所や放課後児童会の拡大が優先課題と考える。 市役所内の業務は相互に関連性が深く、こどもに関して総合化して庁舎から分離した場合、別の観点においては、デメリットになることが考えられる。	
今後はどうしたい？ 【これからの事業展開】	上記の課題なども含め、計画熟度が高くないこともあり、計画年次がH21年度となっている。当面は行政サービスの状況や市民ニーズの推移を見ることになる。	

計画での予定年次 / 担当課	平成19年度(新規)	子育て支援課
事業名	子育てサポーター養成・地域人材活用事業	
計画体系	1-(3)- 地域サポーターの養成	
事業概要 【次世代計画の掲載内容】	地域の保育士・看護師等の資格を有する人や子育てを終えて、ゆとりのある人を発掘・養成し、子育て家庭等をサポーター支援します。	
計画策定時のイメージ	次世代計画では福祉のボランティアを「子育てサポーター」と位置つけた。地域で言えば町内会とか、児童委員とか、さらに子育ての終わった方、退職してもまだ元気な方、子どもが好きな方も発掘して、その方達の協力をいただきながら取り進める考え。	
課題はあるのか？ 【所管課の課題認識】	現在、NPO法人の支援や、道や他の機関の子育てボランティア養成など、種々の動きがある。これらを踏まえ、重複のないよう必要とされるボランティア制度を精査のうえ養成を図る必要もある。また、有資格者のボランティアは、有償でなければ十分なスタッフを確保できないことも考えられる。	
今後はどうしたい？ 【これからの事業展開】	既存のシステムをベースとして構築することで実現性が高まるとも考えられる。例えば国のファミリー・サポート・センター事業を活用して、当該事業の目的達成も十分可能と思われるので、いしかり子ども総合支援会議などの意見も踏まえ検討したい。	
ファミリーサポートセンター事業	子育て支援策で国が重点化している特定14事業メニューの一つ。子育ての援助をして欲しい人(利用会員)と子育ての援助をしたい人(援助会員)が会員となり、お互いに助け合いながら活動する会員組織。運営は国の交付金のほか会員の会費でまかなわれており、利用会員は援助会員に一定の謝金を支払う仕組み。	

計画での予定年次 / 担当課	平成19年度(新規)	子育て支援課
事業名	NPO法人等を核とした子育て支援拠点センターの創設	
計画体系	1-(3)- 子育て支援ネットワークづくり	
事業概要 【次世代計画の掲載内容】	育児支援団体・NPO法人・主任児童委員等との連携体制を築き、子育て家庭を支援します。	
計画策定時のイメージ	NPO法人は計画策定時には市内で3、4の団体が活動中。それらの連携を図り、最終的には一つの共同体(センター)の組織を構想。	
課題はあるのか？ 【所管課の課題認識】	この項目は、根本的に子育て支援のアウトソーシングの最終形態を意識して計画に位置づけたものでもあるが、各種NPOの共同化が果たして理想と言えるのか、十分検証も必要なおうえ、このことは行政主導より団体側の意志により進められなければ、失敗する危険性もある。	
今後はどうしたい？ 【これからの事業展開】	子育てネット会議の本格化により、各種子育て支援団体やNPO法人の連携・共同は図られつつある。共同体(センター設置)については、今後子育てネット会議などをはじめ、広範な議論を行っていきたい。	

次世代計画年次別事業カード(H19～H21年度)

計画での予定年次 / 担当課	平成19年度(新規)	こども家庭課
事業名	休日保育事業の実施	
計画体系	1-(4)- 多様化する保育ニーズの体制整備	
事業概要 【次世代計画の掲載内容】	日曜・祝日の保護者の勤務等による保育ニーズに対応します。	
課題はあるのか？ 【所管課の課題認識】	現在開設している認可保育所においては、保育士の配置や勤務条件(休日の確保)などを検討する必要がある。	
今後はどうしたい？ 【これからの事業展開】	新たな保育園の開設を予定して法人に、休日保育の実施を要請する。	

計画での予定年次 / 担当課	平成19年度	スポーツ・青少年課、地域教育推進室(企画調整担当)
事業名	地域サポーターの養成・活用(世代間交流等)	
計画体系	2-(2)- 子どもの健やかな育成の推進	
事業概要 【次世代計画の掲載内容】	子どもを個性豊かに育むため、地域の人材の有効活用や各種体験活動などを充実します。	
計画策定時のイメージ	地域・家庭・学校との連携体制づくり。子どもの健やかな育成の推進、地域サポーター養成・活用、先程の子育てサポーターと若干この部分と異なってくるのですが、現在小・中学校などにおいて、地域の人材を有効活用していきたい。それから、色々な資格を持っている方が市内にはたくさんいる。そういった人達が有効に活動してもらえよう、活動場所の発掘などを行い、協力してもらえよう考えていく。	
課題はあるのか？ 【所管課の課題認識】	地域教育推進室 人数の確保が困難である。	
今後はどうしたい？ 【これからの事業展開】	スポーツ・青少年課 現在市教委が中心ですべての「地域こども教室」を学校と地域が連携し、中心となって、地域の人材を活用したプログラムで実施され、市内全小学校で行われることが望ましい。 地域教育推進室 地域教育推進室では、地域の人材をスクールアシスタントティーチャーとして活用しているが、活動できる方が少ないため、募集方法の改善などにより多くの参加を募る。	

計画での予定年次 / 担当課	平成19年度	健康づくり課
事業名	指導の徹底及び啓発	
計画体系	3-(3)- 予防接種の普及	
事業概要 【次世代計画の掲載内容】	新生児訪問や各健診時に指導の徹底を図るとともに、リーフレット等を活用して接種の普及・啓発に努めます。また、未接種者の情報を把握し早期に接種するよう指導を徹底します。	
計画策定時のイメージ	予防接種の中でも特に麻しんの早期接種、接種率の向上が課題となっていた。対策として、未受診者を把握して早期接種の勧奨を行なう。	
課題はあるのか？ 【所管課の課題認識】	麻しんの接種は、市内の医療機関に委託実施しており、接種年齢も90か月までと期間が長いことと、転入者もいるために未接種者を正確に把握することは難しい。	
今後はどうしたい？ 【これからの事業展開】	H18年度より予防接種法が変わり、麻しんについては風しんとの混合ワクチンで接種年齢が1歳から2歳までと2回目の接種が就学前の1年間となった。接種期間が短くなったことで未受診者の把握がしやすくなった。予防接種台帳を整備して、未受診者に対して文書や電話で勧奨を行なう。	

次世代計画年次別事業カード(H19～H21年度)

計画での予定年次 / 担当課	平成21年度(新規)	建築課
事業名	公営住宅の入居基準の見直し(多子世帯等の優先入居等)	
計画体系	4-(1)- 住居環境の整備	
事業概要 【次世代計画の掲載内容】	子育てを担う若い世代や多子世帯に、ゆとりある住宅を供給できるよう市営住宅の入居基準等の見直します。	
計画策定時のイメージ	子どもの多い世帯が市営住宅に、優先的に入居できるよう入居基準の見直しを行うことを想定。	
課題はあるのか? 【所管課の課題認識】	多子世帯を優先入居の対象にすることは、今後の取り組みとしては必要と考えているが、現在、高齢者(高齢者の単身含む。)、寡婦(母子家庭)などからの申し込みが非常に多い状況であり、多子世帯を最優先することは難しい状況にある。	
今後はどうしたい? 【これからの事業展開】	現状において、多子世帯に対応した規模の大きい住戸の建設は非常に難しい状況であることから、これまでの建設、買い取り等の手法以外に、新たな供給手法の研究を行っていきたい。	

計画での予定年次 / 担当課	平成21年度(新規)	子育て支援課
事業名	(仮称)こどもワールド整備事業	
計画体系	4-(2)- 子どもたちの居場所づくり	
事業概要 【次世代計画の掲載内容】	プログラムや時間に迫られない空間を子どもたちに提供し、自由な発想で遊び・学び・創作活動など、子どもたちの自主性を大切に事業を、組み立て方式で展開し、子どもの夢と生きる力の育みにむけ、生き生きと過ごせる場を整備します。	
計画策定時のイメージ	子どもの遊びに創意工夫を促すような子どもの遊び場づくり。既製品ではなく、自ら製作に関わった手製の遊具を念頭におく。これまでの公園整備と違って、全てが完成してから供用開始されるのではなく、遊具などは、組み立てモジュール式で順次拡大するなど、子どもの創造性を触発するよう取り進める。	
課題はあるのか? 【所管課の課題認識】	理想に対し、実践化の検証が必要な事業でもあり、今年度から試験的事業を実施(町のはらっぱ事業)。この事業の課題(テーマ)としては、自由な遊びの中で、子ども達自身に必要なルールを見出し、異年齢児による集団行動並びに規範化の経験をできるようにするのか 手製ため必ずしも万全でない遊具での遊びを通じ、子ども自身が注意力を高め危険察知さらには事故の未然防止能力を発揮できるようになるか、ということが挙げられる。	
今後はどうしたい? 【これからの事業展開】	試験的事業(町のはらっぱ事業)を次年度以降も継続して当該事業の実現化に向けた企画の熟度を高めていく。	

計画での予定年次 / 担当課	平成19年度(新規)	児童館
事業名	児童館等の中高生等への開放事業	
計画体系	6-(1)- 地域やNPO法人等の協力による地域活動への参画の推進	
事業概要 【次世代計画の掲載内容】	児童の健やかな育成の拠点施設の一つである児童館や公的施設を見直し、子どもが自主的な活動ができるよう支援します。	
計画策定時のイメージ	地域やNPO法人等の協力による地域活動・参画のボランティア活動やNPOを活用した社会参加・参画と合わせて、児童館等の中高生等への開放事業を想定したもの。子どもの主体性のある活動のバックアップ体制を作ることが目的。	
課題はあるのか? 【所管課の課題認識】	中高生の利用に適した施設整備や中高生の生活形態に対応できるソフト事業づくりが課題である。 ・施設整備等の財源確保	
今後はどうしたい? 【これからの事業展開】	いしかり子ども総合支援会議などでの議論もいただきながら、方策を講じていきたい。	